

ひょうご農林水産ビジョン2035（案） について

農林水産部

新たな農林水産ビジョンの策定にあたって

■ 背景

- ・ 地球温暖化の影響によって異常気象が頻発し、農水産物の品質や収量・漁獲量が低下。環境負荷の低減や地球温暖化対策に資する人と環境にやさしい農業の展開や、豊かな海の再生、既存の水産資源の有効活用が必要。
- ・ 生産性を高める先進技術や、農林水産物・食品の輸出拡大が進展する一方で、地政学的リスクによる化学肥料・飼料穀物等の生産資材価格が高騰する中、需要に応える農畜産物の生産が必要。また、木材価格の低迷による高齢人工林の増加を踏まえ、森林を支える新たな仕組みづくりが必要。
- ・ 農山漁村の人口減少が進む中においても、都市との交流等による地域社会の維持を進めるとともに、県民の理解を得ながら適正価格で安定的に農林水産物等を供給していくことが必要。

■ 策定経緯

- ・ 職員によるブレーンストーミングや農林水産業関係団体、加工・流通・消費関係団体からの政策提案会を実施。
- ・ 本県における背景を勘案するとともに、「食料・農業・農村基本法」に掲げられている食料安全保障の確保、環境負荷の低減、農業の持続的発展、農村の振興などの方向性を踏まえ、農林水産政策審議会において新たなビジョンの策定について審議。

■ 新たな農林水産ビジョン2035では

これらのことと踏まえ、(1) 人と環境にやさしい農業の推進、(2) 収益性の高い持続可能な農業の推進、(3) 需要に応える持続可能な畜産業の推進、(4) 資源循環型林業と豊かな森づくりの推進、(5) 豊かな海と持続的な水産業の実現、(6) にぎわいのある農山漁村の創出、(7) 県民とともに育む豊かな食と「農」の充実などの施策を推進。

趣旨・計画期間

- 「ひょうご農林水産ビジョン」は「ひょうごビジョン2050」の分野別ビジョン
- 本県農林水産行政の基本計画であり、食と「農」に関する行動指針
- 農林水産業・農山漁村をめぐる情勢の変化等を踏まえ、現行ビジョン
(R3～R12) の中間年で農林水産政策審議会に諮問し、見直し中
- 計画期間は2035年度（R17年度）までの10年間

情勢の変化

- 人口減少、高齢化の加速
- 食料安全保障を取り巻く情勢の変化
- 気候変動による食料生産の不安定化
- カーボンニュートラルの取組拡大
- 生産性を高める先進技術の進展
- 輸出の拡大
- 食料・農業・農村基本法の改正

課題

- 環境と調和のとれた農林水産の実現
- 担い手や働き手の確保・育成
- 地域協働体制を担う多様な人材の確保
- 収益性の高い農林水産業の実現
- 国内外の需要に応じた農林水産物の生産・販売
- 県民への農林水産物の安定供給
- 地域資源の活用や都市・農村交流による地域の活性化
- 農林水産への県民の理解醸成

農林水産政策審議会委員（合計28名）

- | | |
|-------|--|
| 会長 | 京都大学 名誉教授 小田 滋晃（農業経済学） |
| 副会長 | 京都大学 教授 池村 英之（農業食料組織経営学） |
| 企画部会長 | 兵庫県農業協同組合中央会 代表理事長 福本 博之 |
| 主な委員 | 神戸大学 教授 中塚 雅也（農業農村経営学）
兵庫県町村会 理事 尾崎 吉晴（福崎町長）
兵庫県市長会 理事 清元 秀泰（姫路市長）
兵庫県漁業協同組合連合会 代表理事長 田沼 政男
兵庫県農業経営士会会長 中山 晋吾
兵庫県木材業協同組合連合会会長 野村 俊彰
兵庫県食品産業協会 会長 船越 照平
(株)ワールド・ワン 取締役 松波 知宏
(一社)日本農福連携協会 会長理事 皆川 芳嗣
(株)神戸酒心館 代表取締役社長 安福 武之助 |
| その他委員 | 15名 |

めざす姿

次代につなぐ環境と調和のとれた
ひょうご五国の農林水産業・農山漁村（仮）

基本方向1
収益性の高い農林水産業の実現

基本方向2
にぎわいのある農山漁村の創出

基本方向3
県民とともに育む豊かな
食と「農」の充実

施策体系

めざす姿

基本方向

推進項目

推進方策

次代につなぐ環境と調和のとれたひょうご五国の農林水産業・農山漁村（仮）

1

収益性の高い農林水産業の実現

(1) 環境創造型農業の推進と地域の特色・立地を活かした農業の展開

- ①有機農業を含む環境創造型農業の推進、②生産性向上による競争力強化
- ③次代を担う経営力の高い担い手の確保・育成、④人材の確保に向けた環境の整備
- ⑤地域・担い手のニーズに応じた農地整備、⑥農地の確保と効率的な利用の促進、⑦都市農業の推進

(2) 需要に応える持続可能な畜産業の推進

- ①環境と調和のとれた畜産技術の推進と持続可能な畜産業の実現、②畜産業の担い手の確保・育成
- ③需要に応じた神戸ビーフの供給

(3) 資源循環型林業の推進と木材利用の拡大

- ①森林資源の循環利用と林業経営の効率化、②森林経営管理制度の推進
- ③次代を担う林業就業者の確保・育成、④県産木材の利用拡大と加工流通体制の強化

(4) 豊かな海と持続的な水産業の実現

- ①豊かな海の再生、②海域環境の変化に対応した水産資源の適正管理と水産技術の開発・普及
- ③漁業の担い手の確保・育成と経営力の強化

(5) ブランド力を活かした攻めの農林水産業の展開

- ①ブランド化による付加価値向上、②国内外での販路開拓による経営体の収益力の向上
- ③県産農林水産物の新たな価値の創出

(6) 食の安全を支える生産体制の確保

- ①適正な生産・監視体制の推進
- ②重大家畜伝染病の発生・まん延防止

(7) 農山漁村コミュニティづくりによる地域資源の管理

- ①地域協働体制を担う多様な人材の確保、②野生鳥獣の捕獲や被害対策に向けた体制づくり
- ③良好な空間の保全、④都市と農林水産業・農山漁村の交流による地域活性化

(8) 地域資源を活かした農山漁村ビジネスの創出

- ①地域資源の活用などの実践活動の推進
- ②バイオマスの利用拡大

(9) 農山漁村の防災・減災対策の推進

- ①ため池災害等の未然防止と避難対策、②山地防災・土砂災害対策の推進
- ③漁港の耐震化と津波・高潮防災対策の推進

(10) 豊かな森づくりの推進

- ①森林の適正管理による公益的機能の維持・向上、②森林の防災機能の強化
- ③森林病害虫対策の推進と保安林制度等の適正運用、④県民総参加による森づくりの推進

(11) 「農」と多様な分野との連携強化

- ①農福連携の取組拡大、②観光・環境等分野との連携強化
- ③学校給食を通じた食農教育の推進

(12) 県民とのつながりで育む食と「農」

- ①県産県消の推進、②農林水産業・農山漁村への県民の理解醸成
- ③楽農生活の推進

(13) 県民への安定的な食料供給

- ①卸売市場を通じた安定供給の確保、②フードチェーンづくり
- ③消費者の信頼の確保

3 県民とともに
充食育実と
農民とともに
育む豊かな
「農」の
（仮）

基本方向 1 収益性の高い農林水産業の実現

1 人と環境にやさしい農業の推進と地域の特色・立地を活かした農業の展開

■ 人と環境にやさしい農業の推進

(有機農業アカデミーにおける担い手育成、有機農産物等の流通・販売拡大、病害虫対策技術の改善)



有機農業アカデミー教育棟(イメージ)

■ 生産性向上による競争力強化

(高温耐性品種の開発・普及、水田農業における革新的技術の導入支援、農業支援サービス事業体による請負推進)



スマート農業の推進、新品種の開発

など

■ 担い手の確保・育成、ニーズに応じた農地整備

(担い手の確保・育成、法人化支援、農地の大区画化、中小規模経営体への営農継続支援)

■ 農地の確保と効率的な利用の促進

(地域計画の定期的な見直し、規模拡大志向農家への農地集積・集約化)

2 需要に応える持続可能な畜産業の推進

■ 環境と調和のとれた畜産技術の推進と持続可能な畜産業の実現

(暑熱ストレス低減技術の推進、暑熱耐性乳用牛の研究、センシング機器を活用した飼養管理の推進、耕畜連携による堆肥の利活用)



受精卵移植により生まれた但馬牛子牛

など

■ 需要に応じた神戸ビーフの供給

(ゲノム情報を用いた但馬牛の改良、優秀な繁殖雌牛の導入や牛舎・機械等の整備支援、但馬牛受精卵移植の取組推進)



J-クレジットの創出につながる主伐・再造林

など

3 資源循環型林業の推進と木材利用の拡大

■ 森林資源の循環利用と林業経営の効率化

(主伐・再造林の推進、CO₂固定効果の見える化、J-クレジットの創出、異業種の企業等の理解醸成)

■ 森林経営管理制度の推進と森林環境譲与税の有効活用

(森林経営管理制度を運用する市町への支援)

■ 県産木材の利用拡大と加工流通体制の強化

(非建築分野での県産木材の活用推進)

4 豊かな海と持続的な水産業の実現

■ 豊かな海の再生

(イカナゴの肥育試験、ナマコ・クマエビ・アサリ等の種苗放流、マダコの量産技術開発)

■ 海域環境の変化に対応した水産資源の適正管理と水産技術の開発・普及

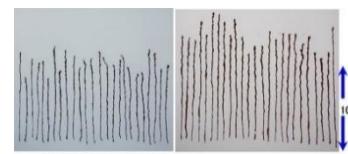
(水温上昇などに対応したノリ・ワカメの品種開発、トラフグ等の魚類養殖の育成・強化)

■ 漁業の担い手の確保・育成と経営力の強化

(シラスやハモ等の既存資源、クロダイ等の低・未利用魚の付加価値向上)



マナマコ種苗(約5~30mm)



既存種(左)と高温耐性候補品種(右)の成長比較

など

5 ブランド力を活かした攻めの農林水産業の展開

■ 国内外での販路開拓による経営体の収益力の向上

(輸出促進プロモーション、兵庫県認証食品の認知と流通の拡大)

■ 県産農林水産物の新たな価値の創出

(異業種との連携支援、6次産業化の推進)



アメリカでの県産品PR

6 食の安全を支える生産体制の確保

■ 適正な生産・監視体制の推進

■ 重大家畜伝染病の発生・まん延防止

基本方向2 にぎわいのある農山漁村の創出

7 農山漁村コミュニティづくりによる地域資源の管理

■ 地域協働体制を担う多様な人材の確保

(農村RMOの形成促進、農村ボランティア、半農半Xや自給的農家などの「農」に携わる人材確保)

■ 野生鳥獣の捕獲や被害対策に向けた体制づくり

(総合射撃場を活用した狩猟者育成、ナガエツルノゲイトウ等の特定外来生物防除対策の確立・普及)

■ 良好な空間の保全

(多面的機能を有する農地や水路等の維持保全活動の支援)

■ 都市と農林水産業・農山漁村の交流による地域活性化

(定住・二地域居住、CSAの取組拡大推進)



都市住民による
稲の収穫体験



新商品開発支援



など

8 地域資源を活かした農山漁村ビジネスの創出

■ 地域資源の活用などの実践活動の推進

(自然や景観、歴史文化等の地域資源を活用した事業等の創出、内水面におけるアユやアマゴ等の増殖支援) など

9 農山漁村の防災・減災対策の推進

■ ため池災害等の未然防止と避難対策

■ 山地防災・土砂災害対策の推進

■ 漁港の耐震化と津波・高潮防災対策の推進

10 豊かな森づくりの推進

■ 森林の防災機能の強化

(災害に強い森づくりの推進、ボランティアの参画推進)

■ 県民総参加による森づくりの推進

(教育機関、企業等との連携を通じた普及啓発、県民への理解醸成、税や寄付、募金等を活用した取組の推進) など

基本方向3 県民とともに育む豊かな食と「農」の充実

11 「農」と多様な分野との連携強化

■ 観光・環境等分野との連携強化

(農福連携のマッチング支援、農泊・農業遺産等を活かした交流の場の創出、海業の推進)

■ 食農教育の推進

(県産県消や有機農産物の価値啓発・食育活動支援、学校給食への県産食材供給支援、ひょうごオープンファームの取組推進等による県民の理解醸成) など



農泊のプログラム
(サイクリングツアー)

12 県民とのつながりで育む食と「農」

■ 県産県消の推進

(有機農産物等の出荷・流通体制の構築、直売所の魅力向上、低・未利用魚の学校給食での活用や加工品開発、魚食普及活動支援)

■ 農林水産業・農山漁村への県民の理解醸成

(ごはん食やお米の価格形成に対する理解醸成、農産物の定期・継続的な購入等のCSAの取組拡大)

■ 楽農生活の推進

(半農半Xなどの研修、親子農業・加工体験) など



料理教室の様子

13 県民への安定的な食料供給

■ 卸売市場を通じた安定供給の確保

(県内産地から県内卸売市場への新たな流通経路の開拓推進、卸売市場におけるBCPの策定推進)

■ 消費者の信頼の確保

(適正な食品表示の推進、食品衛生・品質管理の向上支援) など



閉鎖型の姫路市
中央卸売市場